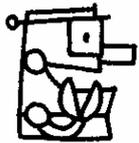


星の色と、なん等星というのは、関係があるの



なん等星というのは、星の明るさを表すもので、星の色とは関係ないのさ。

等星は、星の明るさを表す等級

夜空を見ると、明るくて目立つ星や、赤い色や青白色などの色のちがいがわかる星があります。昔の人は、ばらばらに見える星をひとまとめにして星座^{せいざ}の名前をつけたり、目立つ星に名前をつけて、夜空の星を見分けるくふうをしていました。

星の明るさを表す「なん等星」というのは、ギリシャの天文学者が、目で見ることのできる星の中で、いちばん明るく見える星を1等星、いちばん暗い星を6等星として、その中間の明るさを2～5等星と同じ割合でわけたものがもとになっています。今は、機械で正確な明るさを測定して、1等星は6等星の100倍明るいことがわかっています。

星の色は、星の表面の温度によってちがってくる

太陽のまわりを回っている金星、火星、木星、土星、地球などは、太陽の光を反射^{はん}して光っています。これらのわく星の色は、表面がどのようになっているかによってちがいます。火星が赤く見えるのは、表面の土が赤いからです。

星座の星は、太陽と同じように自分でかがやいています。このような星の光の色は、温度によってちがっていて、2000～3500 ぐらいが赤色、そして温度が上がるにつれて、黄色 白色 青白色と変化していきます。だから、さそり座^{さそり}のアンタレスのように赤い星は、表面の温度がわりあい低い星で、こと座のベガのように青白い星は、約9000 もの高温の星といえます。星の表面の温度で、星の色がちがってくるのです。

もっと知りたい人へ：「星には、なぜ色があるの」も見てみよう。